

働き方改革に関する総理と現場との意見交換会（第4回） 議事録

（開催要領）

1. 開催日時：平成28年12月8日（木）17:30～18:20
2. 場 所：官邸4階大会議室
3. 出席者：

安倍晋三	内閣総理大臣
加藤勝信	働き方改革担当大臣
塩崎恭久	厚生労働大臣
佐藤さやか	日本女子大学修了生
三橋真理子	日本女子大学修了生
和田希望	日本女子大学受講生
茂木知子	日本女子大学就職支援担当者
島 千佳	関西学院大学修了生
西澤和恵	明治大学修了生
永井俊輔	明治大学就職支援担当者

（議事次第）

1. 開会
2. 内閣総理大臣挨拶
3. 参加者からの発言と意見交換
4. 閉会

（概要）

○加藤働き方改革担当大臣 それでは、第4回「働き方改革に関する総理との意見交換会」、今日はリカレント教育を体験し、また実施をされている皆さんとの車座の形で開催させていただきたいと思います。

私は、働き方改革担当大臣の加藤でございます。

また、塩崎厚生労働大臣にも出席をいただいております。

最初に、安倍総理大臣から御挨拶をいただきたいと思います。

○安倍内閣総理大臣 皆さん、こんばんは。

今日は、お忙しい中、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございました。

現在、働き方改革実現会議で検討を行っていますが、誰もが自分のライフステージに合わせて働き方を選択することが可能な社会をつくっていきたく思

っています。

日本では女性の皆さんが、結婚をして、出産をし、その際、一旦仕事から離れるとなかなか仕事に戻りにくい。あるいは、正社員に戻りにくいという現実があるわけで、その中で様々なライフステージにおいて、再就職しやすい環境を整えていく手段として、リカレント教育に注目しております。今日は、リカレント教育の経験者と就職担当者の皆さんにお集まりをいただきました。

リカレント教育については、より多くの方が学び直しができるように、次期通常国会に法律案を提出いたします。補助金を受給できる期間の大幅延長、補助金の給付率や上限額の引上げなど参加者への支援措置を拡充するとともに、土日・夜間に通える講座の増設、そして、保育所の整備を図る予定でございます。

今日は、実際そういう経験をされた皆様からお話をいただきまして、更に私達が進めていく政策に反映させていきたいと思っておりますので、率直な御意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○加藤働き方改革担当大臣 ありがとうございます。

早速、始めさせていただきたいと思っております。

最初に、日本女子大学においてリカレント教育を経験し、また関係する4人の方から、まずお話をいただきたいと思っております。

佐藤さん、お願いいたします。

○佐藤氏 日本女子大学リカレント教育課程修了生の佐藤さやかと申します。

私は、今年9月にリカレントを終了し、大学経由で応募したEuroland IR株式会社に正社員として採用され、現在営業職として働いております。

今回は、私がリカレント教育課程に通うことを決めた理由、学んだ内容、現在働いている中で気づいたことの3点をお話いたします。

1点目のリカレント受講の理由です。私は中央大学を卒業後、情報業界でプログラマーとしてシステム開発に従事いたしました。そしてAmazonの日本サイト立ち上げに携わった後に退職しましたが、理由は妊娠、出産でした。当時、夫の出張が多く、私自身が長時間の通勤であったことから、育児と仕事の両立は難しいと感じたからです。

その後、育児に専念する期間を経て、自宅で添削という仕事で10年ほど働いておりました。子供の成長に伴いまして、再び外に出て働きたいと思いましたが、外で働くことに14年のブランクがあり不安を感じたことと、家族にも準備期間が必要だと感じたことから、リカレントに入学することを決めました。

2点目の学んだ内容です。リカレントでは、必修科目としてパソコンの基本的な操作と、オフィスソフトの使い方を学びました。英語は3科目を受講しましたが、結果としてTOEICで獲得したスコアは、就職活動でアピールすることに

つながりました。また、現職では社内で英語を使いますため、英語の学び直しをしたことが非常に役立っています。キャリアマネジメントの授業では、自己を見つめ直し、働くことの意義について考える機会を持つことができました。そのほか事務室の御担当からは、求人紹介、履歴書、職務経歴書の添削、面接の練習等の支援を受けました。

最後に、実際に働き始めてから、リカレントと就職活動を振り返り感じたことを述べさせていただきます。

ブランクがあった私は、大学での学びと支援により、再び社会に出る勇氣と自信を得ることができました。また、大学経由以外でも求人への応募は数多くしましたが、面接まで行けたものは大学経由の求人のみでしたので、再就職支援には非常に有効だったと思っています。

実務的な面から申し上げますと、オフィスソフトの使用法だけではなく、現在仕事をしている方が当たり前で使用しているクラウドサービス等の知識について、事前に知っておくことができたなら良かったと感じております。

私の発言は以上です。ありがとうございます。

○加藤働き方改革担当大臣 ありがとうございます。

次に、三橋さん、お願いいたします。

○三橋氏 私は、日本女子大学リカレント課程修了後、山崎情報設計株式会社において営業部に所属しております三橋真理子と申します。よろしく申し上げます。

私は大学卒業後、物流会社において輸出に関する業務を担当しました。2002年に夫の海外転勤により退職しましたが、帰国後は子育てをしながらコールセンターで10年間パートタイムとして勤務しておりました。40歳を目前にして、子供も大きくなり、もっとキャリアの積めるような仕事につきたいという気持ちは芽生えたものの、果たして再就職活動をどのように進めたらいいのだろうか、実際、仕事に就けるのだろうかという不安が大きく、悶々としておりました。そのときに、日本女子大学リカレント教育課程を知り、入学いたしました。

入学後は、実務を行っている講師の方から、自分の経験と知識をリンクさせながら興味深く学ぶことができました。また、英語の授業においては、最新のトピックに関して自分の意見を英語で表現するなど、英語をブラッシュアップすることができました。キャリアマネジメントの授業では自分のキャリアの棚卸しができ、また自分と同じ境遇の女性たちとの触れ合いの中で、ぼやけていたキャリアアップへの道が鮮明になっていきました。経営につきましても、現役の女子大生とともに科目等履修生という形で学ぶことができました。

就職活動においては、事務室において、今までの受講生の経験をもとにしたカウンセリング、応募の仕方、履歴書の添削、面接の受け方に至るまできめ細

かい指導を受けることができ、不安なく再就職活動を行うことができました。

リカレント主催の合同会社説明会では、今の就職先である山崎情報設計株式会社と出会うことができました。

受講中に特に印象に残っていますのは、西友の協力による「セルフリーダーシップ・プログラム」です。企業を訪問し、グループで準備をして、前でプレゼンするという貴重な経験ができ、自分たちの力が企業でどのくらい役に立つのかということを感じることができ、自信を持つことができたとともに、実際に就職している方と今の自分とのギャップを感じることができました。リカレントに、もっとこうした企業との連携プログラムが増え、企業の方の生の声が聞ける機会がもっとあったらと思います。

初めてIT企業に就職した今、リカレントで培った学ぶ力を生かして新しいことに挑戦する自信、リカレントで出会って学んだ仲間たちが、私のすごく大きな存在になっております。

以上です。

○加藤働き方改革担当大臣 ありがとうございます。

続いて、和田さん、お願いいたします。

○和田氏 日本女子大学リカレント課程に在籍中の和田希望と申します。

私は、大学卒業後、建設コンサルタント会社に就職しまして、高速道路の設計業務に従事しておりました。私も、夫の海外勤務に帯同のため退職しまして、10年のブランクを経まして2011年よりパートタイムの仕事につきました。5年ほど勤務していたのですが、パートタイムのままではキャリア形成が望めないこと、収入の増加が見込めないことから、転職を決意いたしました。

ですが、実際に転職を決意いたしましても、自分自身に自信がないこと、IT知識や会計知識の不足を実感しまして、体系的に学び直す必要があると思っていましたところ、新聞記事でリカレントの存在を知りまして、一度しっかり学び直してから就職する方がより確実にキャリアを形成できると思い、受講を決意いたしました。

リカレント課程で一番充実していると思うことは、英語教育とやはりキャリアマネジメントです。現在は、再就職に当たっては業務、分野を問わずビジネス英語の技能が必須となっています。社会人としてどのような英語を使うべきか、相手に伝わる英語はどうあるべきかを徹底的に学ぶことができています。

また、キャリアマネジメントの授業では、就業意識を高めることができました。離職期間が長くなってしまいますと、どうしても就業に対する意識が甘くなってしまいます。この点を大きく改善することができました。

再就職に当たっては、履歴書、職務経歴書の記入を指導いただく他に面接の指導をしていただきますが、さらに企業と会う機会を設けていただき、直接企

業とコンタクトをとれる機会を作っていただけています。これに加えて、子育てや家庭との両立など、女性が再就職するに当たり直面する問題について、同級生やカウンセラーの方と語り合う機会を設けていただけています。そうすることで、お互い解決の道を探ることができ、就業に対する不安を解決することができています。

私は、東京ガス都市開発株式会社に正社員としての就職が内定しておりますが、先方にリカレントでの学び直しを大変よく理解していただき、来年1月の授業修了を待って、2月より就業する予定でございます。

以上です。

○加藤働き方改革担当大臣 ありがとうございます。

それでは、日本女子大学で就職支援を担当しておられる茂木さん、お願いいたします。

○茂木氏 よろしくお願いいたします。私は、日本女子大学の茂木と申します。

新卒の就職支援と学生生活の支援を経て、今はリカレント教育課程でカリキュラムと再就職の支援を担当しております。

私からは、就職支援と企業との連携についてお伝えします。

まず、就職支援ですが、リカレント教育課程では、就職者の約8割がフルタイムで就職いたします。結果的に社会保険の被保険者となっております。

再就職を実現するためには、特にキャリアにブランクのある女性について3つのことを伝えています。

1つ目は、ビジネス感覚を取り戻すことです。論理性、社会性は、面接においても大切な要素だと思っています。

2つ目は、働く目的を確認することです。それから、御家族に対しての日常生活の自立を促すことです。例えば配偶者の「自分が変わらなくてもいいのなら働いてもいい」というような考え方に対して、それを変えることができた方は就職活動もスムーズにいらっています。

3つ目としては、特に10年、15年とブランクが長い方もいらっしゃるのですが、まず現実的な目標を立てて、就労経験を優先することを勧めています。

次に、受講生を企業に紹介する際に感じる壁についてお伝えします。

日本は、学び直しの成果よりも職歴を重視する傾向がまだ強い中、やはり女性活躍推進法の施行後は、リカレント教育に興味を持ってくださる企業様が少しずつ増えてきています。さらにこれを周知していくことが大切だと考えております。

人事の方からは、新卒採用の際に生じた社内年齢構成の修正が必要であり、女性の社内比率が低いことを何とかしたいというお話を伺います。リカレントの受講生の印象は、今ご覧になっても前向きで、とても教養が高くてぜひ採用

したいとおっしゃってくださいます。しかし日本は、やはり企業が新卒採用に偏重していますので、なかなか社内コンセンサスをとることが難しいようです。比較的、役員クラスの方に御理解が進むと採用が円滑に進んでおります。優秀な人材がリカレントに多いという理解が進めば、やはり企業内においても多様な人材が活躍できて、柔軟な働き方につながると考えています。

ちなみに、リカレント修了生の中には、菅官房長官の事務所に御採用していただいている方もおまして、事務所の方が日経ビジネスの記事をご覧になって、ぜひということでご求人をいただきました。御採用担当の方からは、社会経験もあって、対人的な距離感が優れていて、他では出会えない人材と伺っております。

次に、企業と連携したプログラムについてです。

再就職活動において、やはり意識をビジネスに向けるために大変有効なプログラムが、企業連携プログラムだと思っています。先ほども三橋さんからお話がありましたが、やはり受講生の方は企業の現場や消費者との視点の違いを意識することができます。そして、ビジネスに必要なコミュニケーションについての課題も見出すことができます。

協力企業様からは、サポートする社員のモチベーションが上がった、執行役員の方への事業提案では、やはり社会人女性らしい現実的で斬新で新しいアイデアがあると、大変好評を得ております。

しかし、参加型で事業提案型のプログラムは調整が必要になりますので、そのための大学側のマンパワーであるとか、協力企業様を広げることが難しい状況です。ぜひ御協力いただける企業様を広げられるよう国からの働きかけをお願いできますと、大変ありがたいと思っております。

最後に、求職中の認可保育園です。先ほども総理からありましたように、なかなか就労中・育休明けに比べまして、求職中の認可保育園の入所申請は不利になっております。ですので、再就職のための学び直しの女性も優先するなどの御配慮をいただければ、大変ありがたいと思っております。

私からは、以上です。

○加藤働き方改革担当大臣 ありがとうございます。

今の4人の方のお話に対して、総理からお願いいたします。

○安倍内閣総理大臣 佐藤さんは、中央大学を卒業して就職したときと、リカレント教育の後にまた就職したときと、学校の就職サポート体制はどうでしたか。やはり違いましたか。

○佐藤氏 就職のサポート体制ですか。

○安倍内閣総理大臣 サポートの仕方も含めてです。

○佐藤氏 実は、私は大学のために1年間留学をしておまして、新卒採用の

当時、何月ぐらいだったかちょっと覚えていないのですけれども、私が帰ってきた時は、既に新卒の採用がほとんど終わっていたような状況で、その中であまり大学での支援を受けたという記憶がない。申し訳ないです。

○安倍内閣総理大臣 独力でやったわけですね。

○佐藤氏 そうですね。

今回は非常にリカレントで支援していただいたので、迷うことも多かったのですがスムーズに進んだと思います。

○安倍内閣総理大臣 自分で希望を出して、企業等も紹介してもらえるのですか。

○佐藤氏 合同説明会がありまして、その中で何社かです。何社ぐらいですか。

○茂木氏 15社です。

○佐藤氏 15社来まして、その中で選んだりとか、ホームページにも紹介がありまして、それを見て応募することもできます。

○安倍内閣総理大臣 ありがとうございます。

三橋さんも、このリカレント教育の中で1年間ということなのですが、長さについてはどのように考えますか。1年間は少し長いという人もいれば、やはり1年間ぐらいあった方がいいという人もいるのです。

○三橋氏 受講科目の中にも、やはり資格取得とかTOEICのアップといったことを勧める講座が多いのですが、半年間は準備講座のような形です。どういう資格が私には向いているのだろう、こういう資格なら取れるかなというところで、まず半年間準備をしまして、その後の半年間で、再就職に向けてじっくりと大学の授業プラス独学という形で資格の勉強もできます。

私の場合でしたら、後期は必須科目以外に自分が本当に興味のある経営学とかマーケティングといったものを、じっくりと女子大の現役の方と一緒に学べたことはすごくいい経験になったと思っております。

○安倍内閣総理大臣 やはり、何か資格を取られたのですか。

○三橋氏 私は、資格は取得していませんけれども、CIAという内部監査人の資格をずっと半年間勉強しておりました。

○安倍内閣総理大臣 勉強されたのですね。

いわゆる一般教養がないわけですから、実際に仕事で役に立つことについてそれぞれ履修をされたのでしょうかけれども、やはりずっと仕事に直結することを学んでおられるから、最初に大学で学んだときとは大分勉強に対する姿勢も違ったという感じですか。

ほかの人たちも含めて、皆さんの熱心度は大変高いのですか。

○三橋氏 リカレントの中だけで学んでいる場合だとわかりにくいのですが、皆さん熱心です。現役の大学生の勉強に対する考え方と私たちリカレントを比

べますと、大学の先生からも、すごく大学生の刺激になって良いという声をいただいております。

○安倍内閣総理大臣 どうもありがとうございました。

和田さんは、いわば使える英語という話をしておられます。その意味では、例えばかつて高校、大学で学んだ英語とは、やはり違う英語なのですか。

○和田氏 何より自分たちの方にこれができなければ仕事に就けないという意識がありますので、まず熱心度が違いますし、教えてくださる先生が実務家ですので、この文法が何のためにあるのか、どう使わなければ外国人には伝わらないかを徹底して教えていただけますので、とても参考になります。

○安倍内閣総理大臣 どうもありがとうございました。

茂木さんは、就職支援等もされているということなのですが、8割が正社員になっているということですか。

○茂木氏 正社員は約半数で、3割が非正規なのですがフルタイムの契約派遣で、お子さんが小さいと残業ができないということで、正社員を目指したいのですが今は契約派遣に落ち着く方はいらっしゃるので、トータルすると8割がフルタイムです。

○安倍内閣総理大臣 4年制の女子大の皆さんへの就職支援と、リカレントの皆さんの就職支援は、やり方というかあり方は違うのですか。

○茂木氏 私は、新卒の支援を18年やってきているのですけれども、氷河期でしたので、かなり徹底したプログラムを実施しました。やはり一度社会に出た方は、社会にもう一度戻ろうという勢いが違います。ですから、学び直しのところは貪欲というか大変熱心です。

ただ、新卒プログラムはトータルで人間力を育てる。社会もそれを待っています。リカレントでは、どちらかというと、細分化された求人に対してどう自分がアプローチするかというプログラムなのです。ちょっと新卒とリカレントの就職支援は異なると思います。

○安倍内閣総理大臣 ありがとうございました。

○加藤働き方改革担当大臣 ありがとうございました。

続いて、残り3人の方からお話を聞きたいと思います。

まず、関西学院大学のリカレント課程を卒業された島さん、お願いいたします。

○島氏 私は、16年間の専業主婦生活をしまして、43歳のときに社会復帰するために関西学院のリカレント教育「ハッピーキャリアプログラム」を半年間受講、修了後にワンゲイン株式会社という輸入卸商社に再就職し現在に至ります島と申します。よろしくお願いいたします。

人並み程度にいろいろあったものの、私は専業主婦としてそれなりに不満の

ない生活をし、これからの未来を担う我が子たちに社会に役立つ人間になってほしいという思いで家事、子育てに専念。長女の中学受験合格で、その責任もほぼ果たし終えた気がしていました。しかしふと、そんな私を見て育った娘たちが、女性は結婚して子育てが終われば後は何もないのだと思ってしまわないかと考えるようになりました。ですが「そうではない、人は幾つからでも、どんな状況からでも再出発できる。生きるということは学び続けることであり、私自身が身をもって示さなければならない。それこそがこれからの時代を担っていく娘たちへ体現できるメッセージになるのだ」と思うに至りました。

そんな折、娘が学校から持ち帰ってきた関西学院のリカレント課程のパンフレットを見て、自分に必要なものはこれだと思い、まずは社会復帰を果たして社会に役立てるよう学び直そうと決意しました。

私が退職したのが95年で、ちょうど世の中がパソコンの時代へ突入するときには退いてしまったわけで、まずは今のビジネスに必要なスキルを身につけることから始めなくてははいけませんでした。リカレントで学んだことは、その後のキャリアに全て役立っていますが、特にITの基礎と応用科目は、Word、Excelすら扱えなかった自分に足りなかったことで、仕事に直結しています。

モチベーションとリーダーシップ、ロジカルプレゼンテーションなどの科目で学んだ内容は、仕事だけではなく日常生活にも通じる内容で、PTAや民生委員としての活動など、様々な場面で役立っています。

専業主婦だった私が、その日常生活で会うことのないビジネスの流行に出会い、学生時代の学びとは全く違う感覚で、どれもこれもただ面白く、自分の経験と学問上の理論があらゆるところでリンクする感覚があり、刺激的でした。

経験と理論の双方をリンクさせることが、いろいろな場面で生きてくるのではないかということも、このリカレント教育の受講で学べました。

大学からの就職支援としては、就職セミナーやインターンシップを紹介していただいたり、修了生交流会などを開催していただきました。結果として、今の職場は修了生交流会でのつながりで得ることができました。

民生委員の仕事をするために、今の職場ではパートという形を私の方からとらせていただいているのですが、現在の会社では役職もいただいております。やりがいを持って取り組んでおります。

以上です。

○加藤働き方改革担当大臣 ありがとうございます。

続いて、明治大学でリカレント課程を卒業された西澤さん、お願いいたします。

○西澤氏 西澤と申します。よろしくをお願いいたします。

前職では26年間やりがいを持って仕事をしておりましたが、ここ2年ほどは

残業、休日出勤が大幅に増え、家庭がうまく回らない、受験期の子供たちの生活が不規則になるなどの支障が出て、退職を決意いたしました。

一方で、管理職としてうまく部門を運営できていたかという反省もあり、体系的に学べるものはないかと調べていたところ、明治大学の「スマートキャリアプログラム」に出会いました。

在学当初より、再就職のため複数の転職エージェントに登録しましたが、通常、登録後、エージェントの方より連絡、面談後、仕事の紹介をいただく流れになっていますが、現在紹介する仕事がないという連絡が届くのみ、面談すら行われなかった状態でした。恐らく年齢、年収等から対象外になったと思われます。

エージェントを介さない転職サイトでも年齢で先に進めないという状態で、非常に悔しい思いをしました。

一度職を離れた女性、特に40代、50代の女性は、職場でうまくやっていけないという固定観念があるように思います。40代、50代の求人は保険の外交が多く、もっと多種多様な業界で門戸を広げてもらえると良いと思いました。

そういった点から、様々な業界に再就職の呼びかけを行い、女性の再就職が企業に役立つ事例を積み重ねていくことが必要なのだと思います。

今回、再就職に当たっては、大学の就職サポートの説明会は出席したものの、登録する前に就職先が決まってしまったため活用できませんでしたが、大学側からの支援として、いろいろな業界でのインターンシップがあれば良いと思います。どういう業界、仕事が自分に合っているのか、また仕事の勘を取り戻すためです。

再就職した現在、リカレント教育で役立った点は、コミュニケーションやコーチングといった人と人との関わりを円滑に進めるための授業でした。特に傾聴は、いろいろな年代、経験の方々と一緒に仕事をするに当たって、非常に重要だと改めて感じています。

以上です。

○加藤働き方改革担当大臣 ありがとうございます。

最後になりましたが、明治大学で就職支援を担当しておられます永井さん、お願いいたします。

○永井氏 私は、明治大学スマートキャリアプログラムで受講生の就職支援をさせていただいております明大サポートの永井と申します。

私どもは明治大学と一緒に、受講生の社会復帰に向けて、さまざまな不安を抱えた受講生の悩みなどを聞きながらアドバイスをしたり、また企業、業界情報を個人で探すにはなかなか限界がありますので、専門的な支援という意味で様々な業界の情報を御提供させていただいております。

あとは、履歴書を実際に作成したり、面接の対策を打つ。やはり10年、20年

経過している方にとっては、本当に一からということが多いものですから、それを実践形式で支援という形でお手伝いをさせていただいたりという支援を行っております。

特にその中で力を入れておりますのが、個々の受講生の現状分析です。自分の社会復帰につながる具体的な方法を、一緒に考え探していく活動に力を入れております。中には10年ぶりの復帰を目指す方もいらっしゃいますので、まずは時代の変化に伴う最新のOA技術、ITのスキルに適用ができるのかどうか、業界情報に疎くなってしまうのではないか、仕事のスピードそのものについていけるのかといったことを、まずしっかり分析いたします。

次に、受講生が社会復帰後に直面するであろうブランクを取り戻すためのならしというものだと思います。これに耐えられるのかどうかを検討していきます。

受講生にとっては、過去の記憶を呼び起こしながら、同時に新しい情報も吸収していかないとはいけません。当面は自分のスキルを磨くために時間的な投資、例えばプライベートの時間も犠牲にしながら、十分に耐えていけるかどうか。これに耐えられると判断した方には、正社員の転職支援を全面的にバックアップさせていただいております。

ところが、なかなかそれが難しい家庭の御事情もあって、夕方以降はすぐ家に帰らなければならない方々につきましては、まずは非正規雇用であっても着実にステップアップできる手段、中長期的なプランを一緒に考え、その計画をキャリアプランという形で御提案する活動も同時に行っております。

着実にではあります、成果も出てきていると思います。明治大学もプログラムがスタートしてまだ2年目ですが、それで実際に正社員にステップアップできた方もいらっしゃいます。

一方で、年齢的キャリアの弱さもよくお聞きしております、それにつきましては、受講生自身がその不安を振りほどけるように、私どもがサポートとしてお手伝いをさせていただいております。

現在、企業に御紹介をさせていただくときに、受講生自体が自分の将来に真剣に向き合って時間的、経済的な投資ができる、積極的な姿勢の持ち主であることを企業様にも積極的にPRさせていただきまして、実際にニーズが高まっていることは、企業説明会の参加企業が増えていることで実証できているのかなと思っております。

ただ、いまだに即戦力という要望が日本企業には根強く残っていると思います。それについての現場に入ってから教育、そして現場に向かうまでの実践的な教育を構築していくためには、まだ少し時間、資金的なバックアップも必要になってくると思いますので、ぜひそういった制度も拡充していただけると

ありがたいと思っております。

○加藤働き方改革担当大臣 ありがとうございます。

それでは、今の3人の方に対してお願いします。

○安倍内閣総理大臣 島さんは、修了生交流会で今の職場に入ることになったということなのですからけれども、修了生交流会とはどういうものなのか。修了生、先輩との交流会みたいなものなのですか。

○島氏 そうです。私が5期生なのですからけれども、関西学院は年代を経ていまして、年に2回修了生セミナーとあって、修了生が集まる同窓会のようなものがあるのです。そこでそれぞれ交流をするので、話ができたりするのです。私の場合ラッキーなことに、そこで修了生の先輩にスカウトしていただきました。修了生の先輩も、先にハッピーキャリアで就職されていたのですけれども、ぜひ来てくれないかということで、思いがけず、すぐに就職につながりました。

○安倍内閣総理大臣 それは、関学の就職支援の一貫として修了生交流会というものをやっているのですか。

○島氏 そうです。ハッピーキャリアプログラムの中の一つの項目であります。

○安倍内閣総理大臣 学校では、このリカレント教育でIT技術等について身につけることができたとお話されたのですが、実際、今の職場も含めて役に立っていますか。

○島氏 今の職場はずっとパソコンと闘っている状況なので、Excelの使い方などは、少しでもうまく使えると仕事がよく捗るので、すごく直結しています。

○安倍内閣総理大臣 島さんの場合も1回就職して、やめて、家庭生活を十数年経験してこられた。そういう意味では、人生経験を積んで、職場だけの経験ではないということは、仕事をしていく上においてやはりプラスになっていると思いますか。

○島氏 かなりプラスになっています。前職は証券会社で営業職をしていたのですけれども、そのときとは全く違う。いろいろ子育てをし、子育てが全てではないのですけれども、自分がやってきた経験が今の職場につながってまして、そのときの目線では考えられなかったことですか、そういう経験をしたからこそ今生かせることが多々あります。

○安倍内閣総理大臣 会社の方でも、新卒者と違って人生経験を的確に評価できるような仕組みがあると、皆さんのようにリカレント教育を終えて、ある意味さらに研修等を終えているのですけれども、それプラスそれまでの人生の歩んできたものが評価されることになれば、大分就職がしやすくなるのかなと思います。

○島氏 もちろん、それは企業さんをお願いしたいことです。

○安倍内閣総理大臣 西澤さんの場合は、やはり年齢がなかなかネックになっ

てはじかれたというお話を伺いました。大体、幾つぐらいで切っているのですか。

○西澤氏 30代だったり、40歳以下のものが多いなと感じました。

○安倍内閣総理大臣 やはり、40歳を超えるとなかなか厳しいということですか。

○西澤氏 そうですね。長期育成のためで30代という求人が大変多い。ただ、今40代、50代も本当に優秀な方がたくさんいらっしゃるので、そこで切られることはすごくもったいないと思いました。

○安倍内閣総理大臣 そういう意味でも、先ほど島さんともお話しした、人生において積んだ経験が正しく評価されていないという気持ちなのでしょう。

○西澤氏 そうです。

○安倍内閣総理大臣 実際、昔の40代と違いますからね。

○西澤氏 全然、そうですね。今の40代、50代は全く違いますので。

○安倍内閣総理大臣 私も62だけれども、昔だったら45ぐらいかなと思ったのです。

○安倍内閣総理大臣 どうもありがとうございました。

明治大学では、正社員あるいはフルタイムの方は、今までの比率としてはどれぐらいですか。

○永井氏 まだまだ半数にも満たない状況ではございますが、少しずつ企業様へのPRと、卒業後就職した方が口述で広告を広めていただいていることで、認知度は大分上がってきた。実際に興味をお持ちいただいて、その受講生と話をしてみたいと。大手企業様を中心に企業説明会もようやく形を整えられるようになってきましたので、これを3年目、4年目と継続していくことで、また卒業生が活躍する実績を高めていくことで、企業様への紹介、フルタイムの就業の機会もどんどん広げていけるかと思っております。

○安倍内閣総理大臣 求人票みたいに、企業から求人が来るのですか。

○永井氏 実際に、求人票という形でいただける企業様もいらっしゃいますし、やはり、本当に採用して戦力として見られるか、少し探りを入れる段階の企業様もまだまだいらっしゃいます。まだ興味で留まってしまう会社様もいらっしゃいます。

やはり、受講生を採用した後、教育していく、そして戦力として育てていく、そこに行くまでの御理解をまだいただけていない現状かと思っております。

○安倍内閣総理大臣 明治は6カ月で、日本女子大の方は1年です。どう思われますか。

○永井氏 短いです。半年でできることといたしますと、やはりまだまだ不十分です。何が一番不十分かと申しますと、まず考え方であったり学術的な勉強は

十分半年でもできるのですが、先ほども日本女子大の皆様がおっしゃっていたような実践的なスキルを磨く場が、時間的にまだ設けられていないのが現状でございますので、やはり長期間学習できるプログラムは必要になってくるかと思えます。

○安倍内閣総理大臣 一方、なるべく早く仕事にありつきたい人もいるでしょうから、それはどうなのでしょう。幾つかのコースがあってもいいのですか。

○永井氏 実際にそういう意見も出ておまして、選択できる幅を広げていく。純粹に、すぐ私は働けると自信満々におっしゃる方もいらっしゃれば、自分が果たして通用するのだろうか、そこに不安を持っていらっしゃる方もいるので、選択できる範囲を広げてあげることも必要かと考えております。

○安倍内閣総理大臣 茂木さんはどうですか。今、1年というプログラムなのですが、これを短くするか長くするかということは考えておりますか。

○茂木氏 実は、考えております。

受講生が増えまして、今年厚生労働省の御支援で給付金講座にもなりましたし、文科省のBP講座にもなりましたので、ちょっと倍率が生じる状態になっております。本当にいろいろな背景、属性の方がいらっしゃるので、永井さんがおっしゃったように、今いろいろ検討しております。

○安倍内閣総理大臣 希望者がなかなか入れないという状況なのですか。

○茂木氏 今月の17日に第1回目をするのですが、予想より多くて、面接官を教員から募っております。

○安倍内閣総理大臣 ちょうど10年前、第1次安倍政権がスタートした年なのですが、我々の一番の目玉はこの「再チャレンジ」だったのです。

そこで、18歳から22歳の2回のチャンスが人生をほとんど決めてしまうことがやはりおかしいし、何回もチャレンジし直すことができることによって、自分のライフステージに合った仕事の選択や、やはり大学4年間を省みてもっと勉強しようと思うことも人生においてあるし、どうやら自分が勤めた会社が合わないなということもあるでしょう。あと、皆さんのように結婚して、そのままずっと家庭でいようと思ったけれどもやはり頑張ろうというときに、なかなかチャンスがない。10年前当時は、ほとんどこのリカレント教育もないし、ほとんどチャンスがなかったのだらうと思います。

そういう意味においては、相当大きな変化が出てきているのかなと思う。

学び直しといっても、例えば大学院に文化系で行っても、ほとんど就職には関係ない、教養として行くという時代だったのだらうと思いますけれども、まさに仕事で実践で役に立つものを皆さんが学ぶ場ができたということなのでしょう。

まだ、スタートしたばかりですから、さらに皆さんにも磨きをかけていただ

きたいと思います。

○加藤働き方改革担当大臣 ありがとうございます。

塩崎大臣にもおいでいただいておりますので、厚生労働委員会で質問ばかり当たっているわけではありますが、何か御質問がありましたら。

○塩崎厚生労働大臣 ありがとうございます。大変勉強になりました。

この間、働き方改革実現会議で、厚生労働省として、再就職するに当たっていろいろなサポートを、特にリカレントでどういうことができるのかということで、先ほど総理から期間の延長とか補助率を上げるとかありました。

その中の一つに、ブランクをどこまでとっているかということ、今までは4年だった。それを10年までにしようとしているのですが、今日話を聞くと、島さんは16年です。ですから10年ではまだ足りないのかなと。かつて雇用保険に入っていたならば、やはりそれは権利があるから、そういうことでサポートができるのだったらさらに延ばさなければいけないかなと思いました。

できたら教えていただきたいことは、今日英語とかITというところで、やはりすごく役立っているという話です。クラウドももうちょっとやっておけばという話です。何かこんなものにサポートが必要ならば、実践で役立つということをも、もし今すぐでもあれば教えていただければと思います。

○加藤働き方改革担当大臣 どなたかいらっしゃいますか。

茂木さん、お願いします。

○茂木氏 記録情報管理者という資格があるのですが、やはり情報漏えいであるとか、そういう今日本に一番緊張感を持って働かなければいけない現場に必要な知識を、管理者資格までカリキュラムとして置いているのです。ああいう授業は、これから大切ではないかと思います。

あと、意外に英語が評判なのですが、日本語の科目も立ち上げました。日本語が乱れている、文書作成能力がちょっと厳しいということで、来期からは必修にするとか、やはり今ビジネスをして改めて感じているところはあります。

○安倍内閣総理大臣 記録情報管理者ですか。

○茂木氏 はい、3級、2級とあります。

○安倍内閣総理大臣 政府でもそれは気を付けなければいけないですね。

○加藤働き方改革担当大臣 ありがとうございます。

それでは、時間になりましたので、最後に安倍総理から一言いただければと思います。

○安倍内閣総理大臣 今日、皆さんからお話を伺っていて、リカレント教育は、今、我々が進めている働き方改革を実現していく上においては大変重要だと思いました。

日本女子大でスタートして何年ですか。

○茂木氏 来年で10周年です。

○安倍内閣総理大臣 10周年ですか。ちょうど我々が再チャレンジを始めた年にスタートしたということです。すばらしいと思います。

ただ、10年でこれだけ大きな成果を上げているということですから、これからもっと注目を浴びて、もっと多くの人たちが受講することになり、かつ社会でそれぞれその能力を発揮していけば、日本の未来はさらに明るくなっていくのではないかと思います。皆さんがそれぞれリカレント教育の成果を生かしていただければ、後に続く皆さんがさらに就職の機会が増えていくことでもありますから、皆さんの活躍を期待しています。

どうも、今日はありがとうございました。

○加藤働き方改革担当大臣 どうもありがとうございました。